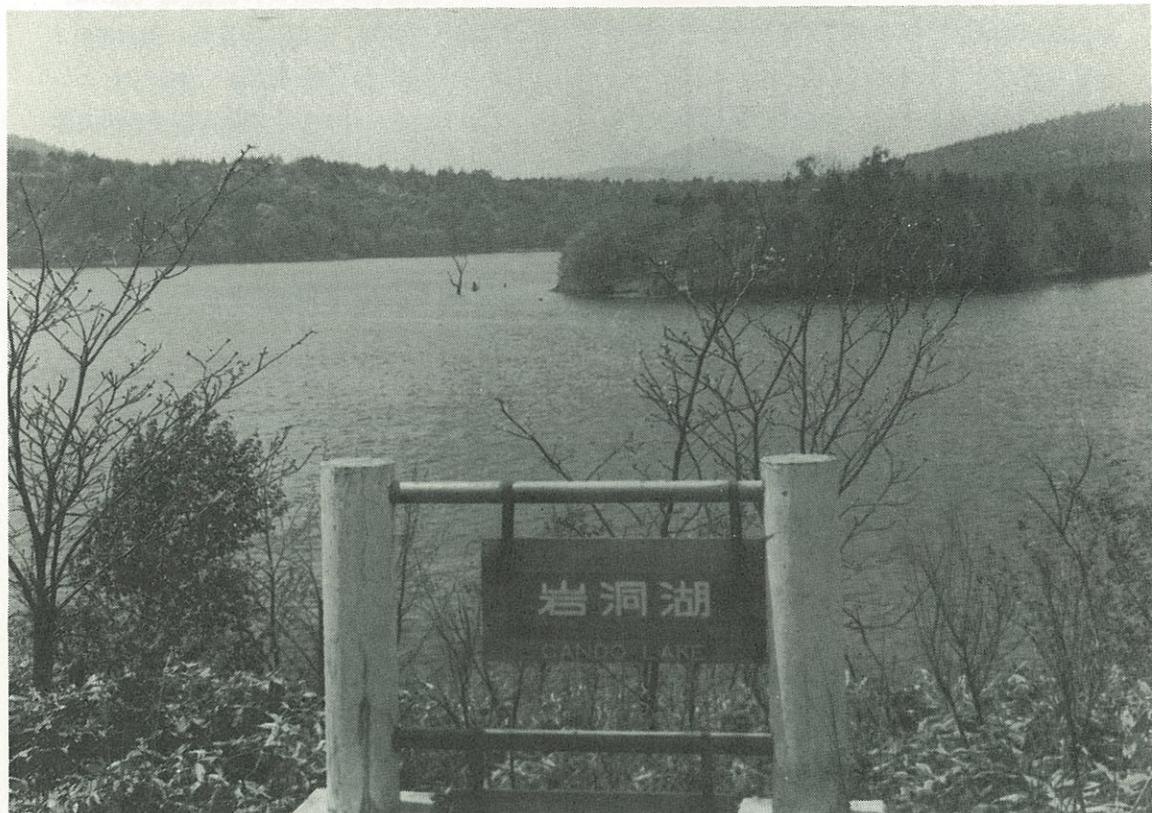


岩手郡医報

No. 13

編集 / 発行

岩手郡医師会
55.6.10.

岩 洞 湖

岩洞湖は、

盛岡市から沿岸部の岩泉町に通ずる主要地方道盛岡岩泉線沿いにして、かつて山の八幡平、海の陸中海岸の両国立公園の中間点に位置し、高原の中の一大人造湖としてその面積は中禅寺湖、湖岸線では十和田湖に匹敵し、変化に富んだ湖岸線、すみきった水は赤松、白樺、芝生の丘陵と調和し、北欧的な風景を見せております。

また、今年6月には雄大な芝生広場の「中央

園地」「湿生花園」、運動や催事ができる「おまつり広場」疎林の中に遊具を配した「ちびっこ広場」そしてテントサイト、炊事棟、ファイヤーサークルのある「キャンプ場」等が整備され、家族単位で豊かな自然の中で健全な観光レクリエーションが気軽に楽しめる家族旅行村がオープンの予定となっております。

A・A記

行事関係報告

1 日医関係

(イ) 「びーぶる」について

日医の対外広報誌として各郡市医師会に於て会員すべてに配布するため年度当初予算に計上する様指示あり。

「びーぶる」については先に講読希望者を調査したるに3名の希望者ありたるにより日医に報告済なり。

尚、2月19日重ねて講読する様通知ありたるも前記の如き状況なるため放置す。

(ロ) 5月6日日本医師会常任理事神津康雄より重ねて当初予算に計上の上一括購入して対外広報誌として活用するよう通知あり。

(ハ) 尚、5月6日の神津常任理事の指示の中に一括購入を申込まざる際は対外広報活動の状況を報告する様、なれば脅迫と思われる様な指示あり。

2 県医関係

(イ) 1月23日保険問題協議会開催せらる。高橋(牧)委員、並びにオブザーバーとして佐藤(郁)、杉本、高橋(司)各先生出席す。

(ロ) 2月8日県庁に於て盛岡地区保健医療問題協議会発会せらる。

当医師会関係の委員下記の如し

記

上野精三 → 副会長、医療資源確保委員
土谷邦彦 → 救急医療部会長
佐藤郁郎 → 救急医療部会委員

(ハ) 2月10日県医師会広報委員会開催せられ嶋理事出席す。

今年度広報委員会が2月10日(木)午後3時より県医師会館において行なわれましたので報告します(嶋)。

今回「いわて医報」編集委員(8名出席)及び各郡市医師会の広報委員(12名出席)の合同会議として行われました。初めに、「いわて医報」前編集委員長の三浦先生より今までの「いわて医報」のあゆみについて説明があったのち、現編集委員長の齊藤先生より

(イ) 現在の「いわて医報」の編集方針及び内容についての質疑応答があり、それぞれ活発な発言がありました。その要旨を簡略しますと

- 各郡市医報とも原稿の集まりが悪く、非常に苦慮している。
- 詩、短歌が少ない。
- 「いわて医報」の常任理事会議録は、あまり読まれていないのではないか? もっと要約して、字体を大きくしたらどうか?(代議員会ではこのまま詳しく載せてほしいのこと)
- 目次を大きくし、表紙にもってきた方がはっきりするのではないだろうか。
- 誌上質問箱のようなコーナーを新設したらどうか。
- 特集として(例えば、今回の老人保健法についての詳細な解説など)取り扱えないものだろうか。
- 「いわて医報」に昭和48年9月号より続いている誌上CPCは、約10年、本年8月号をもって一段落の予定である。
- 社保伝達講習会の要旨をわかり易く解説してほしい。など。
- 医師会の広報活動について
- 気仙医師会では、マスコミとの接触をはかるため近隣の広報担当記者との懇談会

を行なっている。

・県医師会でも、近いうちに記者懇談会を予定している。

(ハ) その他、日本医師会雑誌及び日医ニュースに対する要望などが話題として話し合われた。

尚、「いわて医報」の原稿〆切は、毎月20日です。奮って御意見、御要望をお寄せ下さい。

(ニ) 3月15日県福祉部長より老人保健法に伴う健康保健法第55条に基づく~~継続~~療養についての通知あり。

(ホ) 3月22日県医師会より下記の通り交付あり。

記

地域医療関係事務費 30,000円

学校医部会助成費 60,000円

(ヘ) 3月23日県医師会の役員会に引き続き郡市会長合同会議開催せらる。

会議の内容は老人保健法の対応並びに来るべき参議員選に於ける大浜方栄候補支援体制について

(ト) 4月13日産業医学講習会の通知あり。

(チ) 4月30日日医及び県医の昭和58年度会費の通知あり。

(リ) 4月13日昭和58年県医師会総会の席上に於ける表彰会員の調査報告方通知あり。表彰規定次の如し。

(ア) 郡市並び県医師会役員、議長、副議長、10年以上就任したもの（現役を除く）

(イ) 多年に亘り地域医療に貢献したもの（但し60才以上）

(ウ) 其の他特に功労ありたるもの

(ヌ) 4月15日日医、県医の会費の減免について

(ル) 4月15日産業部会の幹事会並びに東北日本電気（K K）の見学について

(ヲ) 4月15日県医より下記の通り交付せらる。

記

乳児等の助成金 184,800円

母子家庭医療費助成金 67,770円

(ワ) 4月20日健康講座開催費として岩手県並びに岩手県医師会より 450,000円

(カ) 4月22日県医役員会に引き続き都市医師会長会議開催せられ、来るべき参議員選に大浜方栄氏支援について協議す。尚、会なかばに大浜候補来会し、立候補の挨拶並びに協力の要請あり。

3 保健所関係

1月17日盛岡保健所より年末年始の患者報告を求めらる。

4 信金関係

信金より総代選挙の依頼ありたるにより、組合員を調査したるに全組合員共総代は従前通りお願いたし度き旨、全員一致で決定す。仍而4月27日下記の通り決定報告す。

記

医師信金総代 上野精三

" 早藤一雄

" 土谷邦彦

" 宮杜 亨

5 預防医学協会関係

3月25日評議員会開催せらる。

6 郡医関係

(1) 会員の入退会

(イ) 入会

零石町 篠村達雅 篠村外科医院

(秋田県鹿角総合病院より)

尚、篠村達雅先生は以前西根町立病院に在職せられ、当会の会員にて夏の野球大会に出場活躍なされた方なり。

(ロ) 退会

滝沢村 青木哲美 青木内科

埼玉県方面に転出せらる。

(2) 会員の慶弔

3月6日山田わか子先生の御尊父様逝去せらる。3月12日葬儀行なわれ会長外会員多数会葬す。

(3) 1月29日西根町町民センターに於て役員会並びに第二支部内会員の合同協議会を開催し、県医総会並びに県医学会（春季）総会の担当について協議す。

(4) 2月14日老人保健法の医療以外の保健事業について岩手郡歯科医師会長と連絡の上、郡内医療担当に対し各町村担当者と連絡を密にし対応する様通知す。

(5) 2月24日玉山村「ふるさと」に於て役員会を開催す。

協議内容下記の如し

記

主として総会提出議案の掲議をなす。

(イ) 定款改正

(ロ) 昭和58年度事業計画

(ハ) 昭和58年度一般会計予算案

(ニ) 昭和58年度県民健康講座の開催地

(ホ) 県医総会並びに県医学会（春季）総会の対応

(6) 2月23日県民健康講座終了す。

終了式後講師外関係者集合の上反省会を催す。本講座の実施に当り滝沢村当局並びに運営委員、講師各位の御努力に深く感謝の意を表すると共に、特にすべてを独りで準備せられた高橋（牧）先生の御奮闘に厚くお礼申し上げます。

(7) 3月17日改正定款を岩手県知事に提出す。

定款変更認可申請書

昭和58年3月17日

岩手県知事 中村 直殿

岩手県岩手郡雫石町35地割
字万田渡48番地3
岩手郡医師会
会長 上野 精三

社団法人岩手郡医師会の定款を変更したいので、関係書類添えて、認可を申請します。

関係書類

1. 旧定款
2. 新定款
3. 変更理由書

変更理由書

1. 保健行政の変更に伴い、二戸郡安代町が岩手郡医師会に加入したため。
2. 岩手郡、及び二戸郡安代町の人口増により、病院、診療所、医院の開設者の増加により、会員数が多くなり、役員を増員するためである。

(8) 3月21日県医師会館に於て総会開催す。

出席28名委任状29名

会議の次第次の如し

岩手郡医師会総会次第

S 58.3.21 PM 3:00

1. 司会 秋浜理事

2. 開会の挨拶 近藤副会長

3. 会長挨拶

4. 議長選出

5. 報告

- (イ) 県医理事、代議員、各担当理事及び
県部会委員、県医師信金理事、医師国
保組合議員

(ロ) 盛岡地域保健医療協議会について

- (ハ) 昭和58年度県医師会総会並び岩手医
学会（春季）について

(ニ) 昭和57年度県民健康講座について

6. 協議

(イ) 昭和58年度県民健康講座について

7. 議事

(イ) 郡医師会費について

- (ロ) 昭和58年度岩手郡医師会事業計画に
ついて

- (ハ) 昭和58年度一般会計予算について
 - (ニ) 定款改正について
 - (ホ) 顧問の推せんについて
8. その他
定款改正の議決に伴い役員の増員を議事に追加すること有
9. 閉会の辞 坂井理事

昭和58年度事業計画

岩手郡医師会

多難の連続であった昭和57年度もまもなく終りをつげる処です。

私共新しい年度は、岩手県医師会の昭和58年度事業計画によるの外、当医師会として独自に遂行しなければならない幾多の事業があります。

先づ、

1. 昭和58年度岩手県医師会総会、岩手医学会、春期医学会の担当。
2. 昭和58年2月1日より施行せられた老人保健法特に医療以外の健康教育、健康相談等、実施責任者は自治体なるも、私共医師会員の肩に重くのしかかる事業が沢山あります。
3. 昭和22年11月1日新制医師会発足時と種々社会的条件も異って参りましたので、その定款の改正
4. 老人保健法と対応すべき従来の健康講座の考え方

以上四つを重大なる柱として以下各担当委員の構想に基き郡医師会として実施すべき幾多の事項があります、反面わが医界を取巻く幾多の問題があります。

老人保健法による老人入院患者に対する福祉の低下、また税の問題、マスコミによる医界攻勢、将来診療報酬の改訂等期待薄等あります。

毎日のマスコミに見える攻勢には私共にもある程度反省すべき点無きにしもあらずです。

色々の有識者?か評論家又厚生省当局より医師会の自浄を求められて居ります。反省すべきは反省いたしましょう。

私共反省すべき点は反省し地域住民との接触をはかり真の医療に向って邁進すべき時と思料せられます。

特に将来私共は診療室にとじこもり一国一城の主として経過した時代は過去の遺物であって今回新たに老人保健法が制定せられ今後は地域住民との接触のため出の医療を考えなければなりません。



昭和 58 年度岩手郡医師会一般会計予算書

1) 収入の部

科 目	58年度予算額	57年度予算額	増 減	摘要
	円	円	円	
会 費	2,490,000	1,485,000	(+) 1,005,000	A会員 50,000 × 33人 B会員 30,000 × 28人
補 助 金	90,000	90,000		学校保健 60,000 地域保健 30,000
繰 入	200,000	1,200,000	(-) 1,000,000	特別会計より
雑 収 入	3,000	3,000		銀行利子
繰 越 金	1,000	1,000		
合 計	2,784,000	2,779,000	(+) 5,000	

岩手郡医師会

2) 支出の部

科 目	58年度予算額	57年度予算額	増 減	摘要
	円	円	円	
会 議 費	700,000	560,000	(+) 140,000	総会 150,000 × 2回 役員会 100,000 × 2回 部会 50,000 × 4回
事 務 費	660,000	505,000	(+) 155,000	副会長支部長通信費 30,000 × 6人 役員旅費 20,000 × 15人 通信費 60,000 消耗品費 40,000 印刷費 80,000
広 報 発 行 費	730,000	950,000	(-) 220,000	編集費 20,000 × 8 印刷費 60,000 × 8 発送費 5,000 × 8 雑費 50,000
旅 費	500,000	550,000	(-) 50,000	役職員旅費
交 際 費	100,000	100,000		
慶弔費	30,000	30,000		
予 備 費	64,000	84,000	(-) 20,000	
合 計	2,784,000	2,779,000	(+) 5,000	

総会に於て決定せられたる事項下記の通り。

記

(イ) 郡医師会費 A会員 50,000円
B会員 30,000円

(ロ) 顧問 小野寺先生
光井先生
森先生

(ハ) 参与 宇土沢先生
小原先生

(ニ) 定款改訂に伴う副会長1名、理事3名、監事1名及び裁定委員の増員は次回総会にて選出の事と決定。

以上の通り提出議案すべて議決せられ、会議を終了す。

(9) 4月19日老齢会員の会費免除につき申請す。

(10) 4月27日西根町高橋食堂に於て役員並びに第二支部会員の合同協議会を開催し、県医総会並びに岩手医学会（春季）総会についての協議を行う。

当日午後西根町に山林火災発生し被害広範囲に亘り民家の類焼ありて、国道282号線は通行止めなる旨土谷先生の連絡あり。且つ岩手郡内全町村の消防署、消防団出動せるため会議出席の役員に対し救護班として出動し得る如く準備の上出席せられ度き旨連絡す。出席の役員全員準備の上国道4号線を通り西根町に集合す。

集合完了するも停電のため会議開催不能なるにより、土谷先生の先導にて各火災現場を廻り傷病者の有無の調査をなす。

山林火災は広範囲、長時間に亘り且つ民家の類焼ありたるも、幸いにして火災による傷者はなし。只強風による傷者は若干発生す。

午後8時、送電の回復を待ち役員会を開

催し総会の対応を協議す。終了は10時30分なり。

(11) 4月27日医師信金の総代を報告す。

(12) 4月27日医師会名簿の資料を送付す。

(13) 4月28日郡内各町村毎の学校医の報酬調査結果を県医師会に報告す。
調査内容は次の如し。本調査は秋浜理事担当せられる。



昭和58年度学校医報酬調査表

岩手郡医師会

報酬区分 町村名	基 準 報 酉	加 算 報 酉	摘 要
零 石 町	58,000円 二校目 25,000円 三校目以上際は 0 円 眼科、耳鼻科は 1 校に付 72,000円	250 円×生徒数 50 円×生徒数	
滝 沢 村	63,500円	50 円×生徒数	
玉 山 村	60,000円	55 円×生徒数	
岩 手 町	58,000円～70,000円	50 円×生徒数	生徒数により基準報酬に差有 1 校に付
葛 卷 町	24,000円		
西 根 町	60,000円	70 円×生徒数	
松 尾 村	85,000円	110 円×生徒数	
安 代 町	25,000円	200 円×生徒数	

7 総会関係

- (イ) 4月1日第35回岩手県医師会総会並びに
第70回岩手医学会(春季)総会の案内状
(第一報)を発送す。

発送先 岩手県医師会
岩手医学会
各都市医師会
各顧問
予防医学協会
医師信金
医師国保
各会員

(ロ) 5月1日同上案内状第二報を発送し、参
加、宿泊及び観光参加の有無について、各
都市医師会に於て取りまとめの上、5月25
日迄に連絡せられ度き旨発送す。

8 其の他

3月16日在宅当番医制運営補助金を零石町
長中屋敷博殿より送金せらる。
金額 3,303,000円
前年度比 51,000円也の増なり。

鳴呼あの頃（其の拾壹）

10月1日起床喇叭で目を覚させられた悪党幹部候補生共誰言うことなく先ず軍服の着用に先立っての第一声は「あと61日だぞ」です。ところが、隣りの誰かが「あゝ長いなあ」次は「もう少しだ、我慢しろ」という言葉で10月1日が始まりました。口で云う61日は短い様でも決して短い期間ではありませんでした。

只この61日の間には、私共やっと捕われの身が多少なりとも釈放される身分に近づく訳です。歩兵第31聯隊に起居して毎日弘前陸軍（当時は衛戍）病院に教育のため通修するのです。それでいくらかでも娑婆の風にあたり、又空気を吸うことができ、更に約8ヶ月間余り見馴れない若い女性を見る事ができる訳です。今考えると当時独身の吾々若人はあさましい心の持主だった訳です。御許し下さい。

1) 弘前陸軍病院通修

一同中隊長、教官、中隊附持務曹以下の幹部に本日より弘前陸軍病院に通修を命ぜられた旨申告し、隊伍を組んで毎日通修です。当時の病院長は8月1日附の定期移動により〇陸軍病院附より一等軍医正（後の軍医大佐）に進級の上、着任された方で、まもなく〇大学医学部の外科教授に予定されて居るとの事です。従って私共の指導も微に入り細に亘っての指導です。流石大学の教授候補者は違うもんだと一同尊敬して居りました。

(イ) 弘前陸軍病院のI婦長さん

弘前陸軍病院のI婦長さんは、なんでも全国陸軍病院の婦長の中で最上席の判任官一等従〇位勲〇等とかの方で、私共幹部候補生には孫の様に病院のしきたりについて懇切丁寧に指導をいただきました。巷聞する処によるると19才（数え年）で僧侶と結婚し初夜に「ト

リッペル」に感染させられ即時離婚発奮して上京の上、当時の看護婦養成所を優秀な成績で卒業、陸軍病院に就職された方でした。日常私達に対し今の若い方が聞いたらびっくりするやら、又憤慨するであろう様な言葉ですが、婚前交渉はするべきでないと説教をいたきました。ご自分の経験をもとに。

(ロ) 絶世の美人看護婦Sさん

当時満州事変の真只中で満州よりの還送患者が多数収容されて居りました。私共病棟を割り当てられ午後回診に行く際、美人看護婦のSさんに連れられて行く訳です。この美人のSプレさん言葉が津軽語でなく関西なまりの言葉です。聞きますと〇市より最近来たとのこと。後で院内の噂によると〇陸軍附院附より大佐に進級の上、病院長と着任されたK学I氏を「特に慕って」弘前陸軍病院に就職したとのことでした。

(ハ) K学I病院長

前述の通り当時の日本外科学会では著明な方でした。今と違って大学医学部、医科大学、医学専門学校の少ない時代、関西の有名な〇大学の教授を約束されて居た方でしたから、只私共2ヶ月間の病院生活中にも美人プレSさんとの接し方に目に余るものがありました。そこで私共幹候一同は病院長はK学IではなくK色Iではないかと評して居りました。かの有名な病院長もこの件のため現役を免ぜられ予備役編入となり、満州事変、支那事変、大東亜戦争の間に民間の医師多数が応召勤務するのに、お召しに預らず、東北の某町の組合病院長として余生を送られた様でした。軍紀風紀のうるさい軍のことです。風紀はまさに躋から下にあるとの私共の考え方を実践され、気の毒な一生でした。

2) 陸軍病院恒例の大運動会

この運動会は将校、下士官兵、看護婦、雑仕婦、退院間近の入院患者、総参加で幹事役は私共悪党幹部候補生の担当と決められて居りました。種目について私共K色I院長と美人プレSさんの二人について何かやろうと案を練った訳です。そこで兵隊（将校、下士官兵）及び看護婦及び雑仕婦から選手4人宛選び、これにK色I院長と美人プレのSさんを加え10人で封筒に入れた番号を取り出し、同じ番号の男女が手をつないでグランド一周と云う競技を設け実施した訳です。男4人は皆K色I院長より早いし、又看護婦4人は皆美人プレSさんより早いので、結局2人は手をつないでグランド一周となって、私共悪党連の計画は万事目的通りで観衆の拍手を湧き起した次第です。吾等悪党の目的は100%達成した次第です。

尚、当時第8師団主力は満州事変のため満州に出動中のためK色I大佐は師団軍医部長業務兼掌で、つまり軍医部長代理でした。

時々次の様な命令が出て出張される訳です。

本職儀〇月〇日より〇泊〇日の予定を以って秋田、山形方面の衛生事情視察のため出張す。本職不在間、陸軍軍医少佐（当時は三等軍医正）佐〇光〇病院長代理を命ずこの命令が出ますと必ず美人プレSさんが欠勤される訳です。当時軍隊の定めでは軍医部長の出張には必ず大（中）尉の部員が随行する訳ですが、K色I大佐は必ず部員の随行はなく一人で出張されました。これも何か外に内緒で随行される方があったからでしょう。次項のI婦長が昼食会で発言されるのがこれと関係がありました。

(二) 陸軍病院の昼食会

将校に私共幹部候補生を含めて毎日兵食で昼食会があります。約20分食事、後の40分は

教育です。又1週1回は下士官以上の昼食会があります。席上K色I院長曰く

I婦長本年度の幹部候補生は真面目にやつて居るかね

I婦長曰く 本年度の幹部候補生は皆真面目で最近では一番よい候補生と思います。

K色I院長曰く

I婦長それは大変よろしい。皆年頃の独身者なる故風紀には充分注意を与える様

I婦長曰く

幹部候補生は大変真面目だけれど外に時々欠勤したり宿直の割当に変更を申し出る者があつて困ります。「これはK色I院長の彼女美人プレSさんのことでした。」

K色I院長曰く

まあまあ婦長それも大目にみてやれよ。

この様な事の次第でK色I院長と美人プレSさんの間は半ば公認の状態でした。

3) 秋期演習

この秋期演習は年間を通じての軍隊生活で一番楽しいものでした。

私共幹部候補生は例によって、上司である現役軍医将校の代理として各部隊に配属です。現役軍医将校は、患者収容班なるものを組織してタクシーを借上げ大鰐、碇ヶ関、大湯、大滝、湯瀬等の温泉宿泊りです。10月下旬に1週間に亘り温泉旅館とはね。私共一味違った民宿に宿泊家族全員の暖かい歓待を受け、食事は大きなテーブルに家族全員と一緒に、そして特別美人の年頃の娘さんのお酌にていただくお酒の味。これ程特別に私共の心を癒やしてくれるものはありませんでした。

以前は秋期演習が取り持つ縁で結婚された方もあり、又約束を破談として問題となり、後日連隊長、大隊長、中隊長等がお詫びをしたとのこともS持務曹長の説教がありました。只私達は入隊以来「突撃は絶対するな」の説

教は身にしみて居りました。

1週間の秋期演習の間、私は野砲兵第8連隊に勤務を命ぜられ次の通り行動いたしました。

第1日目 弘前一青森市東端（浪打）

肉屋さん泊り

第2日目 青森一野辺地 すし屋さん泊り

第3日目 野辺地一三本木

在郷軍人分会長宅泊

途中演習のため夜9時頃到着。分会長

宅は年頃の娘さん3人あり、2番目の娘さんが1番美人でした。

第4日目 休養日 3人の娘さんと奥入瀬を散策、楽しかったですよ。

第5日目 午前1時出発。この頃は連隊対抗演習にて訓練も激しく陣中戦場審判官、損害賠償官と云う腕章をつけた中少佐（全員当時の中等学校以上の配属将校）が演習地を馬で駆け廻り、私達にたかるのです。

第6日目 5日目の夜は終夜演習で、何時どこを通ったものか、お昼頃今の岩手町の一番繁華街で、部隊が進行停止した際、私は馬上でコックリコックリと居眠りをして居りましたら当時の大きな建物の2階の窓から私の軍帽を取って「精三さん御苦労さん」と言う人があり、目をさまして見上げた処岩手銀行沼宮内支店の看板があり、盛岡中学校同級生の菊地林太郎君（後の岩手銀行常務取締役通称今でも太郎さん）が私の軍帽を2階から取り上げ何も準備していないと云って「光」という煙草（赤い箱に10本入）を5箱慰問品としていただきました。

まもなく行軍開始、一本木附近に進出し、いよいよ翌払暁、観武ヶ原疎兵場（現青山町）で、歩兵第4旅団（在弘前で歩兵第5連隊と歩兵第31連隊）と歩兵第16旅

団（歩兵第17連隊と歩兵第32連隊）の旅団対抗戦が最後の突撃で目出度く終了する訳です。当夜は紫波郡矢幡村（現在町）の駅前の農家に一泊し、私共は翌日汽車輸送により帰隊しました。歩兵連隊は帰路も行軍です。歩くのが本分ですから。秋期演習は実践と異なり楽しいものでした。理由は簡単です。即ち敵の弾丸が飛んでこないからです。

いよいよ10月も経過しあと30日です。除隊と云うゴールが目に見えてきました。11月は終末試験。これに合格し将校選衡会議と云う将校となるか、或いは下士官となるかの別れ目の会議があります。

この外恒例の謝恩会、離散会等飲む会合が沢山あるのは無論のことです。あと30日が早く経過する様除隊を夢にまで見ながら暮しました。

次号



岩手県医師会親睦野球大会始末記

第34回大会は今年は東磐井郡千厩町で行われた。懸念された雨も前夜祭の御神酒の上げ方がよかったです、すっかり上り8月22日の当日は絶好の野球日和となった。第1回戦の対戦相手は久慈市医師会チームで岩手県職業訓練校球場で定刻試合の火蓋はきっておとされた。わがチームの陣容は

- 1 一塁手 高橋（牧）
- 2 二塁手 西嶋
- 3 遊撃手 岡田
- 4 左翼手 本山
- 5 投 手 武内
- 6 右翼手 高橋（司）
- 7 中堅手 遠藤
- 8 三塁手 嶋
- 9 捕 手 宮沢

以上で我がチーム先攻で試合開始となった。

試合経過は

1回表（岩手チームの攻撃）

先頭打者高橋左中間二塁打で出塁好機と思われたが、相手投手のスローボールにタイミング合わず西嶋サードゴロ、期待された岡田三振、本山ライトフライで得点し得ず。（岩手0）

1回裏（久慈チームの攻撃）

1番打者初球投ゴロで幸先よく簡単に一死と思われたが、どうしたことか名手高橋（牧）の落球で出塁二盗後2番打者サードゴロ、これをファンブル無死一二塁のピンチとなる。続く3番を武内投手の剛球で三振に仕留めたが4番打者の遊ゴロを失策満塁となる。ここで5番打者が左中間にヒット、エラーがらみで三者が生還した。続く6番サードフライで二死、走者二盗



し二死走者三塁とピンチは続いたが、三塁を企てた走者がタッチアウトとなり攻撃終了。

(久慈チーム3)

2回表（岩手チームの攻撃）

この回先頭5番の武内三塁ゴロ、一塁の落球エラーで二進、続く6番高橋（司）四球で無死一二塁となりダブルスチールで無死二三塁と絶好の反撃機をつかんだが、次打者7番遠藤投ゴロで一死、8番番嶋遊ゴロで二死となる間に武内生還一点を返したが、9番宮沢無念にも投ゴロで後援続かず。 (岩手チーム1)

2回裏

この回は7番よりはじましたが7番投ゴロ。8番サードに強烈なライナーを放つも嶋の好守に阻まれ二死。続く9番も簡単に三振と、わがチームもようやく調子を取り戻してこの回無難に切り抜けた。 (久慈チーム0)

3回表

この回の先頭打者1番の高橋（牧）投ゴロで

一死、続く2番西嶋四球出塁後すかさず盗塁。3番岡田左前に好打一死一二塁と好機をつかみ、本山四球で一死満塁となる。5番武内三塁ゴロ、バックホームの球を捕手が後逸、西嶋、岡田生還2点をあげ押せ押せムードであったが、次打者高橋（司）一塁フライ、遠藤遊ゴロでチェンジ、この回2点にとどまる。(岩手チーム2)

3回裏

武内投手漸く本調子となりこの回先頭の1番左翼フライ、2番も左翼フライ、好守を誇る本山これを難なくさばき3番も二ゴロで軽く三者凡退。 (久慈チーム0)

4回表

この回の先頭嶋サードフライで一死後宮沢、高橋と連続四球、宮沢果敢にも三盗、一死一三塁の好機に2番西嶋レフト前にクリーンヒットして宮沢生還、岡田四球で大量点につながるかに見えたが本山投ゴロで二死。この後野手の乱れに乗じて三進していた西嶋ホームを狙ったが、



惜しくもタッチアウトでチェンジ。

(岩手チーム 1)

4回裏

時間的にみて最終回、一点リードして守りについたのだが、敵も死にもの狂いこの回先頭の4番が左翼頭上を越す大三塁打を放ち、心理的に動搖したのか武内投手の暴投で生還試合は振り出しに戻った。続く5番6番と連続四球、ダブルスチールで無死二三塁と我がチーム絶体絶命のピンチとなつたが、7番を気力を振り絞って三振に仕留め、ほっとしたのも束の間8番死球で一死満塁の瀬戸際に立たされ、さよなら負けのケースとなつた。打順は下位でもありスクイズが予想されたが案の定スクイズを試み打者

空振り、三塁からの走者タッチアウトで二死二三塁となり、9番を投ゴロに仕留め4対4引き分けとなり、ジャンケンで勝者をきめることになった。

(久慈チーム 1)

ジャンケンの結果我がチームは一回戦で敗退となつたが、ふり返ってみると我がチームの投手と敵投手の球勢に余りにも差があつたためストライクゾーンの判定にも我がチームには辛く相手チームに甘かったという感じは否めないが、それでも最終回のピンチをたつた一点に食いとめたのは見事であった。

選手並びに応援の先生方御苦労様でした。

来年を記して頑張って下さい。

(近藤記)

	1	2	3	4	計
岩手郡	0	1	2	1	4
久慈市	3	0	0	1	4



編集後記



本号の表紙となった岩洞湖の写真とその説明文は、秋浜先生からいただいたものである。

わが郡内に、このような素晴らしい景観のあることを改めて認識し、これを大いに活用すると共に、広くPRすることの資料にして欲しい。



会長寄稿の「鳴呼あの頃 その十一」は、前号の原稿としていただいたのであったが、頁数の関係で本号に載せた。載せることの遅れたことをお詫びする。

軍律厳しい旧軍隊の様子と、その厳しさの中にも微笑ましい生活の場面のあったことなどが伺われる。

ユーモアや、ペーススが程よく入り交じり興味津々たる読み物であり、次号が期待される。



行事関係報告は、毎号のことながら、会長自らの執筆であり、細大洩らさず正確な記述に対して敬意を表する。

この報告の最後の「いわて医報編集委員と各都市医師会広報委員との合同会議」の報告は、この会議に出席された嶋先生からの報告であり、実に明快である。



親睦野球大会始末記は、総監督近藤先生からの寄稿である。これを読んでいると、スタンドで熱戦を目のあたり見ているような感じがする。

シーソーゲームの末、同点となり、ジャンケンで勝ちを相手チームに譲ったのは、いかにも親善野球の結末に相応しいものであったと思う。

選手各位の健闘を讃える。



嶋先生の前掲の報告によれば「各都市医報と

も原稿の集まりが悪く、非常に苦慮している。」とのことであるが、当医師会では、会長が自ら原稿の大半を書いておられるので、編集者は苦慮することなく、感謝している。

会長のみに苦労をかけず、会員各位も適宜原稿を提供し、編集者は、その取捨選択にてんてこ舞いするようになることを切望する。

(高橋)

